

授 業 科 目 の 概 要			
(経営学研究科 技術経営専攻[専門職学位課程])			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	科目英文名称
コア科目	MTI類	<p>イノベーションを生む企業文化</p> <p>【科目の位置付】 イノベーションを興すべく社内に新規事業を立ち上げる際に必要となる知識と知見を習得させ、競争戦略を創発して製品や事業のコンセプトを自ら具現化しイノベーションの実現を図ることができる戦略的思考能力を身に付けるためのMTIトラック指向のコア科目</p> <p>【主旨と概要】 現代の世界的企業の競争戦略の潮流は、企業(組織)が、その内外の「もの・ひと・金」のリソースを最大限に活用し、新ビジネス創造とそれに必要なイノベーションパートナーシップを発展・展開させることである。その実践プロセスを、企業の評価、企業内起業のための手法、戦略的提携、大学や研究所との協同、内部インキュベーション戦略オープンイノベーション、M&Aなどの実例を通して理解し、実践事例から得る知見と合わせて戦略的思考能力を身に付ける。</p> <p>【授業形態】 理論を教授する講義と実践事例のケーススタディを中心に実施する。</p>	
		<p>イノベーション志向型競争戦略</p> <p>【科目の位置付】 競争戦略を策定し製品や事業のコンセプトを自ら具現化しイノベーションの実現を図る能力を身に付けるためのMTIトラック指向のコア科目</p> <p>【主旨と概要】 イノベーション推進を基本とする技術系企業の競争戦略策定とその実施のための、競争戦略フレームワークを理解し産業分析能力を習得する。技術の変化とイノベーションによりドライブされている市場で競争していくための、競争戦略をどのように策定実施していくか、またどのように修正または転換していくかをケースにて学び、価値創造と価値獲得の視点から、産業構造と産業ライフサイクルによる技術の与える影響の相違を理解し競争優位の獲得の知見を得る。</p> <p>【授業形態】 講義と実践ケースのディスカッション討論を中心に行う。</p>	
		<p>デザイン思考</p> <p>【科目の位置付】 イノベーションのための手法の一つであり近縁注目されているデザインシンキングの概念と手法を習得し創造力を高めるためのMTIトラック指向のコア科目</p> <p>【主旨と概要】 「デザイン思考」はビジネス・製品の問題を解決するためにデザイナーが使うブレインストーミング手法である。その概念を理解することにより、組織として創造力を高めることを目的とする。手法としてIDEOメソッドロジー、などを利用して創造的能力を身に付ける。</p> <p>【授業形態】 概念と実践事例の講義に基づき、グループワークで課題に取り組みデザインシンキングの考え方を体感して行く、ワークショップ形態で実施する。</p>	
		<p>イノベーション志向型マーケティング</p> <p>【科目の位置付】 先進的マーケティングの状況を知って戦略的思考を養うためのMTIトラック指向のコア科目</p> <p>【主旨と概要】 イノベーションを推進するためのマーケティング分野の最新概念を学ぶ。量的および質的なマーケティング戦略の立案、マーケティングの管理、マーケティング環境の分析、そして全体の実行プログラムのサポート、を理解し、デジタルマーケティングのケースも含めて、ハイテク製品やハイテクサービス分野からの実例に焦点を絞って知見を身に付ける。</p> <p>【授業形態】 講義とグループワークを交えて実施する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(経営学研究科 技術経営専攻[専門職学位課程])			
コア科目	MBA類	世界の日本とアジア	<p>【科目の位置付】 世界経済の中の日本とアジアの位置づけを理解し、マクロ経済学の知識に基づき国際経済情勢を予測し経営戦略に反映させることができる能力を養うためのMBAトラック指向のコア科目</p> <p>【主旨と概要】 経営者やCXO人材がグローバルな視点を持って国際戦略を立案し経営意思決定を行うには、マクロ経済学の基本知識と現実の世界経済の中の日本とアジアの位置づけに関する知見をともに兼ね備える必要がある。国際競争理論を、国際経済社会における日本及びアジア諸国の経済情勢と、そこで操業する企業の国際経済社会における将来性の事例をディスカッションにて理解する。国際経済社会の情勢分析により経済情勢を予測することができる、能力を身に付ける。</p> <p>【授業形態】 理論の教授講義と例題実践事例の解説により講義を中心に行う。</p>
		意思決定の経済分析	<p>【科目の位置付】 ミクロ経済学の基本を習得させ経済情勢の分析予測力を養い、経営戦略、競争戦略に反映させることができる能力の基礎を固めるためのMBAトラック指向のコア科目</p> <p>【主旨と概要】 市場の構造とニーズ、需給曲線、経済予測、習熟曲線、消費者ニーズと価格・品質、市場や産業への規制等の実践ケースをディスカッションし、最新の情報技術を活用した経営ツールと共にミクロ経済学を理解する。実際の企業経営で必要となる市場参入の判断、価格設定判断、費用と利益の分析、内製・外製判断、移転価格設定、政府の規制などに立脚した実践能力を身につける。</p> <p>【授業形態】 理論を教授する講義と例題・実践事例の解説を中心に実施する。</p>
		リーダーシップと倫理	<p>【科目の位置付】 組織を率いる絶対的統率力を持つリーダーとして備えるべき国際社会に通じる、ビジネスの倫理感、コンプライアンス、ガバナンスなどの資質や能力を身に付けるためのMBAトラック指向のコア科目</p> <p>【主旨と概要】 ビジネス組織を作り運営し絶対に統率するリーダーシップ開発と共に、一方、利害関係に関する利益相反等の潜在的リスク局面、あるいは職業倫理的に厳しい選択をせまられる局面において正しい判断ができる資質と能力を身に付け、企業内の組織と経営戦略や競争戦略を実行できるようにする。企業倫理の面で評価が高い会社、また企業倫理が問われた会社のケースを取り上げて考察しかつ議論し、自らの判断能力を養成する。また管理・財務・企画、研究開発、マーケティング、営業など様々な部門や環境で通底する普遍的な強いリーダーシップを理解する。</p> <p>【授業形態】 講義とグループワークを中心に行う。</p>
		グローバル戦略・組織論	<p>【科目の位置付】 世界市場を俯瞰・理解し、経営戦略や競争戦略を策定しそれを実行する組織構成を理解することで、戦略策定と実行ができる能力を獲得するためのMBAトラック指向のコア科目</p> <p>【主旨と概要】 世界市場に出ていく日本企業の製品・サービスの戦略のグローバル対応をGlobal Integrated Enterprise、多国籍企業、国際企業などの定義から、製品多角化と地理的多角化の長所短所、企業戦略におけるグローバル化対応の観点、等を学ぶことで、企業戦略と事業の国際化・多角化、組織能力の開発、戦略と組織の相違を理解し、戦略策定と組織的に実行する能力を身に付ける。</p> <p>【授業形態】 講義と実践ケースのディスカッションを中心に行う。</p>

授 業 科 目 の 概 要				
(経営学研究科 技術経営専攻[専門職学位課程])				
コ ア 科 目	M B A 類	組織進化論	<p>【科目の位置付】 変化の激しい環境に対応でき、革新的で創造的な組織を作り、経営戦略や競争戦略を実行できる能力を身に付けるためのMBAトラック指向のコア科目</p> <p>【主旨と概要】 創造力や創造性、また市場環境の変化に素早く対応できる適応性（フレキシビリティ）を、組織の中に涵養することは、経営戦略や競争戦略を組織的に実行推進していくうえで欠くことができない。これを実現するために組織の文化や考え方の均一化や固定化を避け、多様な価値観や、文化背景のある人材を登用する所謂ダイバーシティを推進している典型的組織例、また同じく創造性と適応性を拡大活性化するための公式・非公式な組織代替例、強力なリーダーシップモデル例の議論から実現の知見を得るとともに、創造性・柔軟性・組織変革をいかにリードしていくかを議論し、組織戦略を効果的に実行する方法を学ぶことで、イノベティブなアイデアを考案し変化に素早く適応できる組織を設計・運営するために必要な基本能力を身に付ける。</p> <p>【授業形態】 講義と実践ケースのグループ討論を中心に行う。</p>	
		グローバル化と知識交流	<p>【科目の位置付】 グローバルにビジネスを行う人材に必要となる、海外企業・顧客とのビジネスコミュニケーションと異文化交流のスキルを開発することで、強力なリーダーシップを身に付け戦略を実行推進する能力を身に付けるためのMBAトラック指向のコア科目</p> <p>【主旨と概要】 グローバルに対応する口頭発表技法、メールほかでの交流技術、良き聞き手となる要点、個人的にまた組織としてのWin-Win関係の作り方、などのコミュニケーション能力を身に付け、近年ますます重要となっている異なる文化を持った顧客や企業内の同僚と交流ができる能力を学習する。言語や文化を異にするメンバーによって構成される企業連合、コンソーシアム、多国籍提携の増加する中で、種々の交渉をWIN-WIN関係に導き、組織内でのパワーゲームさえも乗り越えていく能力が求められることから、より優れた交渉、交流を実現するための基本的考え方と実用的なビジネスコミュニケーション技術、交渉技術を理解し身に付ける。</p> <p>【授業形態】 英語での講義も交え講義と実践ケースの、討論、グループワーク、ロールプレイを主体に実施する。</p>	
		経営管理会計1	<p>【科目の位置付】 経済情勢の分析予測力を身に付けるために経営判断の基礎となる財務知識習得のためのMBAトラック指向のコア科目</p> <p>【主旨と概要】 意思決定の経済分析を補完する科目。バランスシート、損益計算書、在庫管理、および原価計算の原則をもとに財務諸表の基本を理解し金融、および概念を十分に経営の観点から判断できることを目的とする。Part 1では、基本的な金融概念を理解する。</p> <p>【授業形態】 理論の講義を中心に実施する。</p>	
		経営管理会計2	<p>【科目の位置付】 経済情勢の分析予測力を身に付けるために経営判断の基礎となる財務知識習得のためのMBAトラック指向のコア科目</p> <p>【主旨と概要】 経営管理会計1の応用と実例を主体に扱う。経営管理会計2では経営管理会計1にて得られた知識をもとに、ベンチャー企業および大企業のバランスシート、収益に対する理解を深める。実例の粉飾決算、不正会計事例を分析し、その発見方法、不正経理の背景、処理方法、等を理解し、戦略を実行していく能力身に付ける。</p> <p>【授業形態】 講義とケースのディスカッションを中心に実施する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(経営学研究科 技術経営専攻[専門職学位課程])			
M a n a g e m e n t o f T e c h n o l o g y & I n n o v a t i o n (M T I) T r a c k & T r a c k c o u r s e	ト ラ ッ ク 科 目	ベンチャービジネス論	<p>【科目の位置付】 製品や事業のコンセプトを自ら具現化し、イノベーションを実現する能力を身に付けるために、起業家や社内新規事業責任者が、新規事業創出、運営、発展の要点を理解し知識と知見を得るMTIトラックの選択科目</p> <p>【主旨と概要】 イノベーションベースの新しいベンチャー企業の創業および企業内においての新規事業の立ち上げに際し、そのコンセプト確立からプロトタイプと資金調達、新組織の立ち上げ、マーケティング、事業メンテナンスなどの運営プロセスを考え、創業から成長を経てIPOに至る起業家精神と理念、ベンチャー企業のメカニズムを学ぶことで具体的に「起業」を実践できる能力をつける。</p> <p>【授業形態】 講義、アントレプレナーの講演、グループワークを交えて実施する。</p>
		イノベーションの歴史	<p>【科目の位置付】 製品や事業のコンセプトを自ら具現化しイノベーションを実現する能力を身に付けるために、CTO志向者、起業家、社内新規事業責任者が、イノベーションの歴史を理解し、イノベーションの本質を理解するためのMTIトラックの選択科目</p> <p>【主旨と概要】 イノベーションの歴史的事実をもとにイノベーションが起こる必要条件と十分条件について、論理的な考察を行う。これによりイノベーションの技術背景と社会背景を理解し、イノベーションを起こすためには、どのような洞察力すなわち戦略的思考を身につけるべきかを習得する。</p> <p>【授業形態】 講義とケース討論を中心に進める。</p>
		起業家精神の原則	<p>【科目の位置付】 製品や事業のコンセプトを自ら具現化し、イノベーションを実現する能力を身に付けるために、CTO志向者、起業家、社内新規事業責任者が、日本およびアメリカにおいて実在した（実在している）起業家から学び、起業家精神に関わる諸原則を理解するためのMTIトラックの選択科目</p> <p>【主旨と概要】 日米の偉大な起業家の業績を、技術と社会環境の両面で分析し理解する。時代によって変化する起業家の条件、あり方、その着眼点、リーダーシップ、目利き力を理解して戦略的思考力を強化し、これらから起業するための示唆を得る。</p> <p>【授業形態】 講義とケース討論を中心に進める。</p>
		新製品開発に应用する伝統技術	<p>【科目の位置付】 製品や事業のコンセプトを自ら具現化し、イノベーションを実現する能力を身に付けるために、日本の歴史に残る伝統技術を実際に見聞し技術の進歩、そしてあり方を考え、未来への戦略的思考を活性化するためのMTIトラックの選択科目</p> <p>【主旨と概要】 日本に古くから永年にわたり伝わっている日本の伝統技術について歴史や技術的な価値を学び、その技術の継承・発展を実地に見聞する。日本の製造業に息づいてきた伝統的な「ものづくり」の考え方を見直しその強みの今日的な意味や製品に利用されている事例を確認し、グローバルな競争力の源泉としてとらえ技術を俯瞰して理解しこれからのイノベーションへの示唆を得る。</p> <p>【授業形態】 講義と現地調査等を含む集中講義等で実施する。</p>
		先進的ものづくりとサプライチェーンマネジメント	<p>【科目の位置付】 製品や事業のコンセプトを自ら具現化し、イノベーションを実現する能力を身に付けるために、製品の研究開発から部品調達、製造、保守、廃棄までの一連の製造に関する戦略を考え理解するMTIトラックの選択科目</p> <p>【主旨と概要】 情報技術の発展を反映した現代の製造戦略とサプライチェーンマネジメント（SCM）を理解し、諸外国企業のグローバルな製造戦略とSCMと日本企業のそれとの比較を行い、従来の日本の「ものづくり」の在り方を考え直すとともに、製品・サービスのサプライチェーンのダイナミズムを調べ、組織と社会での実践を議論する。</p> <p>【授業形態】 講義、ケース討論に実地見学等も加えて実施する。</p>

授 業 科 目 の 概 要			
(経営学研究科 技術経営専攻[専門職学位課程])			
M a n a g e m e n t o f T e c h n o l o g y & I n n o v a t i o n (M T I) T r a c k	トラック科目	研究開発組織のマネジメント	<p>【科目の位置付】 製品や事業のコンセプトを自ら具現化し、イノベーションを実現する能力を身に付けるために、研究開発組織のマネジメントの在り方をベンチャー企業から大企業まで比較して要点を理解するためのMTIトラックの選択科目</p> <p>【主旨と概要】 研究開発は企業の持続的競争力を保つために重要な競争戦略の基本である。研究開発によってもたらされる技術的イノベーションが単発で終わらずに、繰り返し起こるための研究・開発組織のマネジメントを議論する。技術イノベーションの4つの側面、探索研究、事業化加速、イノベーション刷新とダイバーシティ（国籍・人種・男女、文化など）について分析し、ベンチャー企業と、既存企業（超大企業、大企業、中小企業）の研究開発の成功と失敗した例を検討し研究開発組織のマネジメントの知見を得て戦略的思考力を高める。</p> <p>【授業形態】 ケース討論を中心に実施し、アカデミック教員と実務家教員が共同して理論と実践の両面で指導する。</p>
		ITの戦略的利用	<p>【科目の位置付】 製品や事業のコンセプトを自ら具現化し、イノベーションを実現する能力を身に付けるべく、多くのイノベーションの基本であるITの利用と、ITそのもののイノベーションを考え理解し、戦略的IT活用を実行する能力を身に付けるための、MTIトラックの選択科目</p> <p>【主旨と概要】 情報技術（IT）はSNS企業や通信事業だけでなく、製造業やサービス業など業種を問わず、イノベーションの実現・発展のための重要なインフラである。常に最新のIT技術を使いこなすことが経営戦略上重要であるばかりでなく、ITでいま何が起きているのかを理解し新しい技術をどのように使うかを理解し、さらなる戦略的利用を議論し自分の戦略的思考に落とし込む。</p> <p>【授業形態】 講義とグループ討議を中心に実施する。</p>
		ビジネスで成功するための戦略	<p>【科目の位置付】 イノベーションによるマーケットの創造・拡大とマーケットにおける自社の競争優位を目指すアントレプレナー、イントラプレナー、CTO志向者、上級技術責任者などが、知的財産戦略をビジネス成功のための戦略的思考に取り込むためのMTIトラックの選択科目</p> <p>【主旨と概要】 特許を中心とする技術企業の知的財産をビジネスの成功につなげるための戦略的思考力・ビジネスモデル構築力の養成を目的とする。授業では、エレクトロニクスを中心とする近年の日本の技術企業のビジネスでの苦戦の原因を知的財産戦略の観点から分析し、さらに知的財産のビジネスへの活用方法一般の基本を学んだ上で、代表的日米企業のケース・スタディーを通じて、ビジネスで成功するための知的財産戦略の構築力の涵養を図る。</p> <p>【授業形態】 日本企業の知的財産戦略の分析および知的財産のビジネスへの活用方法一般に関する講義と、グループ演習による日米技術企業のケース・スタディーを中心に実施する。</p>
		ビジネスモデルのためのグローバルIPシステム	<p>【科目の位置付】 グローバルなビジネスモデルの展開のもと、製品や事業のコンセプトを自ら戦略的に具現化し、イノベーションを実現する能力を身に付けるために、グローバルに知財法の知識を獲得しつつ、知財戦略の構築能力を学ぶMTIトラックの選択科目</p> <p>【主旨と概要】 ICTやAI等の急速な発達によるグローバルなビジネスモデルが展開される中、日本・アメリカ・ヨーロッパそして中国等のアジアの特許法等の比較を行い、各地域・国の特徴を理解することにより、グローバル化した仕向け地、生産地等に対応した特許権の取得法及び活用法を学びつつ、知財戦略の構築能力を異業種間の比較・考察をしながら身に付ける。</p> <p>【授業形態】 講義と係争事件を含めたケーススタディーを中心にディスカッションを交えて実施する。異業種のゲストスピーカーを交えたディスカッションも行う。</p>

授 業 科 目 の 概 要			
(経営学研究科 技術経営専攻[専門職学位課程])			
M a n a g e m e n t o f T e c h n o l o g y & I n n o v a t i o n (M T I) T r a c k	ト ラ ッ ク 科 目	ソフトウェアとインターネット ビジネス開発	<p>【科目の位置付】 製品や事業のコンセプトを自ら具現化し、イノベーションを実現する能力を身に付けるために、ソフトウェアとインターネットに関連した多くのイノベーションが生起していることを理解し、自らも当該分野でイノベーションを起こすことができる素養を身に着けるためのMTIトラックの選択科目</p> <p>【主旨と概要】 IoTや限界費用消失などの、革新的将来に向けたソフトウェアとインターネットの可能性を理解するとともに、コンピュータ・インターネットの原理と技術を理解したうえでその有効な利用法とイノベーションを議論し、新しいソフトウェアとインターネットビジネスへの戦略的思考を強化する。</p> <p>【授業形態】 講義とケーススタディおよびグループワークを中心に進める。</p>
		プロトタイプと製品・ サービス開発	<p>【科目の位置付】 製品・サービス・ビジネスモデル・場などのコンセプトを創造し開発するプロセスにおいて重要な役割を果たす「プロトタイプング」の本質と手法を学ぶMTIトラックの選択科目</p> <p>【主旨と概要】 プロトタイプングとは、創造中のコンセプトの価値を評価し結果をフィードバックして更にコンセプトを改善していく目的と、創造したコンセプトを実現する手段として活用する目的の二つがあり、総体としてイノベーションを起こす重要なプロセスであることを理解する。またプロトタイプングは単に製品開発だけに適用されるものではなく、サービス開発やビジネスモデル開発あるいは事業開発そのものにさえ適用できるものであることを理解し、イノベーションをマネジメントする幅広い能力を身に付ける。</p> <p>【授業形態】 プロトタイプングとは何かを概念定義する講義とプロトタイプングを活用して成功した具体的な事例によるケーススタディを用いたグループワークを併用して実施する。</p>
		コンセプト創造と新規事業開 発	<p>【科目の位置付】 製品・サービス・ビジネスモデル・場などのコンセプトを自ら創造し、イノベーションを実現する能力を身に付けるため、イノベーション生む根源となる「コンセプト創造」の本質とその手法を学ぶMTIトラックの選択科目</p> <p>【主旨と概要】 イノベーションのスタート地点となるコンセプト創造について、その概念定義に関する講義とケーススタディによりコンセプト創造の本質と方法論を理解する。教室で課題を設定し、グループワークの中でコンセプト創造を模擬体験する。コンセプト創造とそれを実現するための情報収集や行動観察など未来顧客の声を具体的に収集分析する基本プロセスを習得する。製品・サービス・ビジネスモデル・場など七つの基本コンセプトを体系的に理解し、自らコンセプトを創造して新規事業として結実させる基本原理と戦略的思考を身に付ける。</p> <p>【授業形態】 コンセプトとは何かを概念定義する講義とコンセプトを創造して成功したケーススタディおよびコンセプト創造を体験するグループワークを併用して実施する。</p>
		ライフサイクルマネジメント	<p>【科目の位置付】 製品や事業のコンセプトを自ら具現化し、環境負荷等も考慮した新たなイノベーションを実現する能力を身に付けるために、製品ライフサイクルのなかでどのようにして利潤を最大化するかを目的とした従来の製品ライフサイクルマネジメントから持続可能社会実現の観点から環境負荷の最小化も考えに入れた、新時代のライフサイクルマネジメントの知見と実行する能力を身に付けるMTIトラックの選択科目</p> <p>【主旨と概要】 プロダクトライフサイクルマネジメントでは製品・サービスの企画・設計・製造・販売・利用・修理（メンテナンス）・販売終了・メンテナンス終了・廃棄・再利用、の一連のライフサイクルの各段階で収益と費用をどのように調整し、全体の収益を最大化するかが重要課題である。しかし同時に、資源の枯渇や地球環境保護の観点からも製品や生産物の生産・使用・廃棄までの各段階での環境負荷を調整し、ライフサイクル全体として環境負荷を最小化するかという観点も今後ますます重要となっている。ライフサイクルの各段階での収益、費用、管理運用を、各段階のプロセスの戦略をもとに法的規定を含めて実際に基づき議論し理解しビジネスプランを作成し実行できる能力を身に付ける。</p> <p>【授業形態】 持続可能性社会の考え方も取り入れた新しい製品ライフサイクルマネジメントに関する講義、事例を用いたケーススタディ、事例製品をモチーフとしたグループワークによるビジネスプランの作成等により実施する。</p>

授 業 科 目 の 概 要	
(経営学研究科 技術経営専攻[専門職学位課程])	
M a n a g e m e n t o f T e c h n o l o g y & I n n o v a t i o n (M T I) T r a c k	<p>バイオ医療のビジネス開発</p> <p>【科目の位置付】 イノベーションを実現する能力を身に付けるために、バイオテクノロジー、医薬品、医療機器の事業化を担う上級技術責任者あるいは、バイオテクノロジーや医薬品・医療機器ビジネス開発の著しい特異性を理解し改革を目指す上級技術責任者のためのMTIトラックの選択科目</p> <p>【主旨と概要】 バイオ・医薬品・医療機器の研究開発とビジネス開発を、研究開発プロセス、Bio Informatics等の技術利用、IP管理などの観点から分析し、独特の仕組みや規制があるバイオ医療関連ビジネスの開発について、その問題点や課題を理解する。更にこれらの問題点を、企業倫理の観点も含めて理解し改革の方策あるいは隘路を開く起業の可能性を議論する。</p> <p>【授業形態】 当該技術や業界やその問題点についての講義、事例のケーススタディ、ゲストスピーカーによる証言、等で進める。</p>
	<p>ダイナミック環境下の知財戦略</p> <p>【科目の位置付】 変化の速い市場環境、社会経済環境の中で、技術戦略や知財戦略の在り方を理解するMTIトラックの選択科目</p> <p>【主旨と概要】 近年、市場の拡大が加速度的に速くなり、経済情勢の変化に技術対応が追いつかないこと、また急速な情報技術の発達で事業の仕組みが短期間に大幅に変化している。技術戦略や知財戦略も、事業環境に適合してフレキシブルに変化させてゆく組織能力が求められる。イノベーションで重要な役割を占める知的財産の位置づけを確認し、ライセンス契約、標準化、リージョナルなどの戦略を駆使してビジネスの価値をどう高めるか、防衛するか、資金化するかなどの観点を理解する。</p> <p>【授業形態】 変化する環境下での技術と知財の戦略に関する講義、事例のケーススタディを主体に実施する。</p>
	<p>中小企業論</p> <p>【科目の位置付】 中小企業およびベンチャー企業の経営者や関係者が、それらの企業をマネジメントする能力や観察する能力を養成するためのMTIトラックの選択科目</p> <p>【主旨と概要】 中小企業と大企業では、保有する経営資源の量や、市場からのヒトやカネなどの資源の調達し易さなど、前提となる状況に違いが存在する。そういった前提条件の違いは、部分的に大企業とは異なる経営を行う必要性を生み出す。同じことは、従来の中小企業とベンチャー企業の間でも言える。あるものの特徴は他のものと比較すると浮き彫りになりやすい。本科目では、マーケティング、競争戦略、人材マネジメントといった経営の基礎トピック毎に、大企業を念頭において創られた理論的な教科書を、従来の中小企業とベンチャー企業に当てはめて分析することを出発点に、従来の中小企業やベンチャー企業特有の経営の要諦を考察し、探求する。そして、それらの分析や考察を通じて、中小企業をマネジメントする能力や中小企業を見る眼を養う。</p> <p>【授業形態】 事前資料に対する疑問に基づいた議論および、こちらで提示したケースまたは受講生が調査してきた事例を基にしたケースディスカッションを中心に実施する。</p>
	<p>日本企業の海外展開</p> <p>【科目の位置付】 海外現地拠点の駐在者や本国で海外事業に関与するマネジメント層およびそれらの候補者が、グローバル経営に関する施策のレポートリーや思考の幅を広げることを通じて国際マネジメント能力を養成するためのMTIトラックの選択科目</p> <p>【主旨と概要】 海外で大きな成功を収めている日本企業の展開パターンとその背後にある論理には、欧米企業と共通する部分があると同時に、異なる部分も多く観察されている。本科目では、近年ますます活発化しつつある日本企業の海外展開に関する過去の事例と最新の情勢を、特定の産業や進出地域に限定せずに紹介する。そして、それらの実態を理論的なフレームワークを出発点として活用する形で分析し、さらにその分析結果を基に日本企業と欧米企業の展開のパターンと論理の共通点と相違点を考察し、議論していく。そして、それらの分析や考察、議論を通じて、国際マネジメントを行うための素地となるものの見方や能力の養成を試みる。</p> <p>【授業形態】 事前資料に対する疑問に基づいた議論および、こちらで提示したケースまたは受講生が調査してきた事例を基にしたケースディスカッションを中心に実施する。</p>

授 業 科 目 の 概 要			
(経営学研究科 技術経営専攻[専門職学位課程])			
M a n a g e m e n t o f T e c h n o l o g y & I n n o v a t i o n (M T I) T r a c k	トラック科目	デザイン関連知財	<p>【科目の位置付】 デザインを保護する知財法に関する基礎知識を得るためのMTIトラックの選択科目</p> <p>【主旨と概要】 商品の外観のデザインは競争力の源泉にもなり得る重要な知的財産である。デザイン活動の領域・対象が広範にわたるため、デザインを保護するための法的枠組みは多様であり、また、デザインの開発段階から商品販売後の模倣品対策までデザインに関連する知財法務は多岐にわたる。プロダクトデザインを保護する上で中心的役割を果たす意匠法に加え、不正競争防止法、商標法、著作権法等のデザイン保護に関連する他の知財法についての理解と活用も必要となる。具体的事例を用いるケーススタディで実務的スキルを身に付ける。</p> <p>【授業形態】 デザイン関連の知財諸法に関する知識を伝達する講義と具体的事例によるケーススタディを中心に実施する。</p>
		デザイン戦略	<p>【科目の位置付】 デザイン戦略の基礎知識とスキルを得るためのMTIトラックの選択科目</p> <p>【主旨と概要】 近年、企業収益を確保するために、商品・サービスを差別化、高付加価値化するためのデザイン（狭義）のみならず、経営戦略、ビジネスモデルに係る意思決定としてのデザイン（広義）の必要性が強く認識されている。本講義では経営戦略・マーケティング等におけるデザインの位置づけを理解し、デザイン開発プロセス、デザイン開発体制等の具体例を通じて企業におけるデザインマネジメントの概要を把握するとともに、具体的な問題を解決するためのデザイン思考ワークショップにより、デザイン戦略の実践プロセスを体感する。</p> <p>【授業形態】 デザイン戦略に関する講義、ケーススタディ、グループワークを中心に実施する。</p>
		先端技術の知財保護	<p>【科目の位置付】 ICTやライフサイエンスなどの先端技術に対する知的財産の保護について事例を通して学ぶMTIトラックの選択科目</p> <p>【主旨と概要】 情報通信技術やライフサイエンスなどの先端技術分野においては、次々と新たな技術が生まれ、その進歩は著しいが、これらの技術をいかに保護するかは企業の経営において重要な課題である。特許による保護とノウハウによる保護の切り分け（オープン・クローズ戦略）や、重要な製品のライフサイクルマネジメント戦略をどのように行うかなどについて基礎的な知識を身に付けるとともに、事例を検討することにより、技術分野に応じた知財戦略を構築する能力を身に付ける。</p> <p>【授業形態】 基礎的な知識を得るための講義に続き、ケーススタディを実施する。</p>
		特許制度の基礎	<p>【科目の位置付】 我が国企業が日本及び海外でビジネスを行う際に必要な特許制度の基礎的な知識を得るためのMTIトラックの選択科目</p> <p>【主旨と概要】 特許制度の全体像を理解するために、我が国の特許制度を中心に、特許制度の理念、変遷、課題なども含め、特許制度の基本的な知識や考え方を学ぶ。また我が国企業がビジネスを行うためには、海外での特許保護が必須であることから、海外での特許権の取得のために必要な国際的枠組み（条約）を理解する。</p> <p>【授業形態】 基礎的な知識の習得のため、講義を主体に実施する。</p>
		組織原則とナレッジマネジメント	<p>【科目の位置付】 ナレッジマネジメントの戦略および活動と、情報技術、組織能力、経営理念といった関連概念との関係を討議することで、新しい組織運営の発想を得るためのMTIトラックの選択科目</p> <p>【主旨と概要】 ナレッジマネジメントによって、組織変革や新商品・新サービス・新事業の創造を主導できるようになるために、ナレッジマネジメントの内容、範囲、論点を理解し、組織運営にかかわる情報技術、組織能力、経営理念との関係について検討する。</p> <p>【授業形態】 組織運営、ナレッジマネジメントについての講義およびチームによるケース討議を実施する。</p>

授 業 科 目 の 概 要			
(経営学研究科 技術経営専攻[専門職学位課程])			
ト ラ ッ ク 科 目	C o r p o r a t e E n t r e p r e n e u r s h i p & S t r a t e g y (M B A) T r a c k	データ分析による意思決定	<p>【科目の位置付】 経済情勢予測能力を身に付け経営戦略を創発しイノベーションの実現を図るべく、データ分析に基づく経営を志向する経営者等に向けたMBAトラック指向の選択科目</p> <p>【主旨と概要】 近年多くの経営判断に定量的なモデルを用いた解析や経営科学ツール、統計解析ツール（データ、モデル、およびソフトウェアプログラム）が用いられるようになってきている。また、データ量の指数関数的増大は、データ分析の質的転換を起し、データの取得、分析にも新しい考え方が導入されてきている。データ分析の本質と基本を知り、様々なモデリングや分析の手法を学び、科学的な経営判断を行う能力を身に付ける。</p> <p>【授業形態】 データ分析の基本に関する講義と、実際にグループでデータ分析を使用した経営判断のシミュレーション等で実施する。</p>
		グローバルビジネス交渉力	<p>【科目の位置付】 ビジネスのグローバル化に伴い、外国人や外国企業と交渉しなければならない場面が増えており、経営者やCXOを志向する人材にグローバル対応の交渉力を育成することを旨とするMBAトラックの選択科目</p> <p>【主旨と概要】 技術や製品の売買、研究開発の提携、国際共同プロジェクトの推進等のための英語による海外企業との交渉力の養成を目的とする。文化の違い、言語の違いを超えた交渉力を身に付けることにより、交渉をリードし相互の共通理解のもとに合意を得ることができる能力を、ロールプレイによる模擬交渉ゲームなどで強化する。</p> <p>【授業形態】 WIN-WIN交渉の基本や異文化間交渉での留意点に関する講義と、個人同士あるいはグループに分かれての交渉ゲームなどにより実施する。</p>
		オペレーションズマネジメント	<p>【科目の位置付】 自社の運営の中に競争優位の源泉を設定したい経営者やCXO人材に企業運営の競争力化を指導するMBAトラックの選択科目</p> <p>【主旨と概要】 従来は生産に焦点を合わせた生産技術マネジメントといわれていた分野であるが、企業内の業務プロセスが研究、企画、設計、開発、マーケティング、フルフィルメントなどの現場に拡大し、オペレーションが競争優位の源泉となることが可能になってきた。世界中のエクセレントカンパニーの事例を議論しそれぞれどのようなオペレーションが競争優位の源泉をなしているかを理解し、自身の企業内で展開できる力を養う。</p> <p>【授業形態】 企業のオペレーションとは何かの講義と、引き続き議論とケーススタディを中心に授業を実施する。</p>
		業界分析	<p>【科目の位置付】 経済情勢予測能力を身に付け経営戦略を創発し、イノベーションの実現を志向する中で、業界分析に基づいて新規参入や撤退、あるいは企業買収等を考えている経営者やCXO人材向けのMBAトラックの選択科目</p> <p>【主旨と概要】 電機、情報、創薬、といった業界とその内部にあるエコシステム、および個々の企業の競争力を、技術的優位性、財務体制、販売体制、サプライチェーンなどをFive Forcesその他を使い分析し、結果により戦略の策定・変更の方法論を分析方法とともに、理解する。分析の信頼性と精度を向上させるためには、どのような情報をどのようにして、いつ集めるのか、どのようなモデルに基づいて分析するか、を実務ベースで議論し、自分自身で産業分析ができる能力を身に付ける。</p> <p>【授業形態】 議論とケーススタディ、グループディスカッション等を主体にして実施する。</p>

授 業 科 目 の 概 要			
(経営学研究科 技術経営専攻[専門職学位課程])			
ト ラ ック 科 目 & S t r a t e g y (M B A) T r a c k	C o r p o r a t e E n t r e p r e n e u r s h i p & S t r a t e g y (M B A) T r a c k	サービス戦略とイノベーション	<p>【科目の位置付】 戦略思考能力を身に付け、新事業や新規起業によりイノベーションを実現しようとする中で、無形のサービスに価値を与えてイノベーションを起こそうとする経営者やCXO人材向けのMBAトラックの選択科目</p> <p>【主旨と概要】 有形のハードウェアがコモディティ化により価値を下落させている中、無形のサービス（役務）の付加価値が高まっている。どのように高付加価値のサービスを実現し提供するかを科学的に分析理解するサービスサイエンスないしサービス工学を学び、優れた製品とサービスを提供することがイノベーションにつながることを理解する。逆にイノベーションを指向する企業は顧客の価値を最大化すべくサービスを極限まで活用することが必須となっていることを体得し、顧客の真のニーズをつかみ統合的な製品とサービスを提供をする能力を身に付ける。</p> <p>【授業形態】 サービスサイエンス、サービス工学の講義と企業のケーススタディ、企業調査等を中心に実施する。</p>
		製造業のサービス化	<p>【科目の位置付】 戦略的思考力を高めて経営戦略を創発しイノベーションの実現を企図している経営者やCXO人材のために、サービスを価値の源泉とする戦略を示すことを目的としたMBAトラックの選択科目</p> <p>【主旨と概要】 ものづくりで始まった日本の製造業は QCD(Quality, Cost, Delivery)を競争優位として永年成長してきたが、90年代の急激なデジタル化によりその優位性が保てなくなっている。製造業もデジタル化だけでなく「もの」に「こと（顧客価値）」すなわちサービスを組み込むことが求められていることから、サービス化に成功した製品例や企業例、また自社製品を広くプラットフォーム化しそこでサービスによるエコシステム実現に成功した例等をもとに、サービス化・エコシステム実現の本質を理解し、実践できる知見と能力を身に付ける。</p> <p>【授業形態】 議論と企業の成功例・失敗例のケーススタディや企業見学等を中心に実施する。</p>
		チャンネルマネジメント	<p>【科目の位置付】 戦略的思考力を強化し経営戦略を策定実行することでイノベーションの実現を企図する経営者やCXO人材が、流通販売チャネルの計画的作成と実現戦略を策定する能力を身に付けるためのMBAトラックの選択科目</p> <p>【主旨と概要】 製品・サービスの流通販売チャネルは、メーカー、流通業、小売業のようにチャネルが分離独立して存在していたが、特に無形のサービスにおいての流通チャネルはインターネットに代替され、情報コミュニケーションの容易化により、有形のハードウェアの流通販売チャネルにおいてさえも、流通および販売チャネルの省略による直販等の形態も出現している。情報通信技術や産業の発達により近未来の流通販売チャネルは激変するものと考えられており、顧客のニーズの聞き出しから社内の支援組織の立ち上げ、エコシステムのための協力会社の取り込み、および流通販売戦略として直販、代理店、VAR(Value Added Distributer)との協業の在り方等を考察し、Product Life Cycle Management の観点も含めて流通販売チャネルのあるべき姿を計画し実現戦略を策定する能力を身に付ける。</p> <p>【授業形態】 基本概念の講義と企業事例のケーススタディを中心に実施する。</p>

授 業 科 目 の 概 要		
(経営学研究科 技術経営専攻[専門職学位課程])		
C o r p o r a t e E n t r e p r e n e u r s h i p & S t r a t e g y (M B A) T r a c k	ビジネスモデルイノベーション	<p>【科目の位置付】 戦略的思考力を強化し経営戦略を創発し新事業や新規起業によりイノベーションの実現を希求する経営者やCXO人材に、ビジネスモデル自体のイノベーションの考え方を理解し、イノベティブな経営戦略策定のための新しいビジネスモデルを示すMBAトラックの選択科目</p> <p>【主旨と概要】 イノベーションはビジネスモデル自体にも生起している。先端的ビジネスモデルでは、QCD(Quality、 Cost、 Delivery)を拠り所とした従来の閉鎖的なリニアシステムに依拠したビジネスモデルから「量から価値へ」、「大量消費・大量廃棄から環境配慮と持続可能性へ」、「単独・独自からオープンな協調へ」とシフトし社会に対する責任を考えることが求められている。競争優位の確立 (gaining) と維持(sustaining)において、先端的なビジネスモデルのイノベーションがエコシステム、製品、産業特性や技術とどのように関連しているか、また先端的なビジネスモデルの生成・発展プロセスなどを理解し革新的ビジネスモデルを策定する能力を身に付ける。</p> <p>【授業形態】 ビジネスモデルのイノベーションの最新の潮流についての講義に続き、事例のケーススタディとディスカッションを主体に実施する。</p>
	企業合併と買収マネジメント	<p>【科目の位置付】 戦略的思考力を強化し経営戦略を創発し新事業や新規起業によりイノベーションの実現を目指す経営者やCXO人材が、経営戦略策定のためのM&A戦略を学ぶMBAトラックの選択科目</p> <p>【主旨と概要】 事業の拡大および成長の手段としての、企業買収と合併の在り方を議論する。買収・合併の目的には、単に市場技術・人材を獲得するだけでなく、技術的優位の確保や、新規事業への進出などが考えられるが、競合企業の排除の目的さえも含まれる。単にファイナンスの問題だけでなく、社員のリテンション・モチベーション、独禁法、トレードシークレットなどの法的に考慮しなければならない点も多い。この講義では予測される問題点を議論し戦略としてのM&Aを理解し自身の経営戦略に反映できる能力を身に付ける。</p> <p>【授業形態】 関連法規や留意点に関する講義と事例に基づくケーススタディを中心に実施する。</p>
	アドバンスド戦略マネジメント	<p>【科目の位置付】 国際経済情勢を判断し戦略的思考力を強化したうえで、経営戦略を創発し新事業や新規起業によりイノベーションの実現を希求する経営者やCXO人材が、更に高度な、技術とイノベーションのマネジメント戦略を策定する能力を身に付けるためのMBAトラックの選択科目</p> <p>【主旨と概要】 長期的な視点の経営戦略を、長い期間成功させている企業に着目しその戦略と企業運営について分析する。主な観点として、全社的な事業構造や資源配分、継続的利益を担保する競争戦略、それらを生み出した組織のコンピテンシーについて議論する。成功の基となった上級経営管理者の戦略的企業経営について考察を深める。取り扱われる企業の多くはグローバルに事業を展開する巨大企業であり、グローバルなマクロ経済にもリンクしたその壮大な戦略マネジメントを深く考察することで、経営能力の強化を図る。</p> <p>【授業形態】 戦略的マネジメントについての講義と卓越した経営戦略を持つ企業のケーススタディを中心に実施する。</p>
	コーポレートファイナンスと資本市場	<p>【科目の位置付】 経済情勢の分析・予測力と戦略的思考力を強化し経営戦略を創発し新事業や新規起業によりイノベーションの実現を希求する経営者やCXO人材が資金調達と資本市場を理解し経営戦略策定能力向上を図るためMBAトラックの選択科目</p> <p>【主旨と概要】 資本市場や投資に焦点を当て、現代の金融経済学と財務管理のコア理論を議論し理解する。資本市場と金融仲介機関、資産評価、固定利付証券、普通株式、資本予算、多様化とポートフォリオ選択、リスク資産の均衡価格、効率的な市場の理論、デリバティブおよびオプションへの導入の機能等を理解し、現代の資金調達や資本市場の仕組みを掌中に収めることで、経営能力を向上させる。</p> <p>【授業形態】 資金調達と資本市場に関する講義と資金調達手法に関する課題練習を中心に実施する。</p>

授 業 科 目 の 概 要		
(経営学研究科 技術経営専攻[専門職学位課程])		
C o r p o r a t e E n t r e p r e n e u r s h i p & S t r a t e g y (M B A) T r a c k	ベンチャーファイナンス	<p>【科目の位置付】 経済情勢の分析・予測力と戦略的思考力を強化し経営戦略を創発し新事業や新規起業によりイノベーションの実現を希求する経営者やCXO人材がベンチャー企業経営や起業を志向する上での財務戦略のためのMBAトラックの選択科目</p> <p>【主旨と概要】 ベンチャー企業の在り方をファイナンスの観点から理解することを目的とする。新規事業を起こす際の資金の集め方、技術評価の在り方、企業価値評価・向上、ベンチャーキャピタルの投資のプロセス、CVC(Corporate Venture Capital)を議論し理解する。企業価値・株価の向上などベンチャー企業の経営者（新規事業責任者）としてのマネジメント能力を身に付ける。</p> <p>【授業形態】 講義とベンチャー企業事例のケーススタディを中心に実施する。</p>
	アドバンスド経済分析	<p>【科目の位置付】 経営陣が意思決定を洗練するためには、経済分析がますます重要になってきている。コア科目で修得した経済概念とツール(手段)を様々な経済・産業分野に応用・適用するためのMBAトラックの選択科目</p> <p>【主旨と概要】 本講義で使用するトピック(素材)は毎年変わる。例えば、日本企業と日本経済にとって異なるエネルギー選択肢における経済に及ぼす影響に対して特に着目し、最先端科学・技術の研究及び技術開発への投資や日本企業にとってますます重要な新製品やサービス等の経済的分析とその評価を学ぶ。</p> <p>【授業形態】 理論を教授する講義と例題・実践事例の解説を中心に実施する。</p>
	デジタルマーケティングとソーシャルメディア	<p>【科目の位置付】 経済情勢の分析・予測力と戦略的思考力を強化し経営戦略を創発し新事業や新規起業によりイノベーションの実現を希求する経営者やCXO人材がデジタルマーケティングを駆使した、マーケティング戦略を策定する能力を得るためのMBAトラックの選択科目</p> <p>【主旨と概要】 デジタル技術はマーケティング戦略をも根本から変えている。従来は大量生産、価格重視の考え方のもとに、企業から顧客への一方的情報提供であったが、現在はスマートフォン・ビッグデータ・AI(人工知能)などが各顧客の動向を集めソーシャルネットワークで拡散される形に変わっている。</p> <p>本講義は多くの顧客への浸透はIT技術の進歩に支えられている現実のもと、デジタル時代のルールと技術(サーチマーケティング、ソーシャルネットワークマーケティング、分析、予測モデリングモバイル広告、CRMなどが含まれる)に対する十分な理解を与えることを目的とする。</p> <p>【授業形態】 デジタルマーケティングの要点の講義と実例に関する議論を中心に実施する。</p>
	アドバンスドマーケティング & ブランド戦略	<p>【科目の位置付】 経済情勢の分析・予測力、統率力を強化し経営戦略を創発して新事業や新規起業によりイノベーションの実現を希求する経営者やCXO人材が具体的なマーケティング戦略策定能力を得るためのMBAトラックの選択科目</p> <p>【主旨と概要】 必修科目より高度なマーケティング、ブランドマネジメント、CLV(Customer Lifetime Value analysis)、価格分析、デジタルマーケティング・ソーシャルメディア等につき理解する。</p> <p>【授業形態】 最新のマーケティング手法とブランド戦略の講義と実践に向けての議論を中心に実施する。</p>
	国際企業法務と戦略	<p>【科目の位置付】 海外展開する製品や事業のコンセプトを自ら具現化し、企業コンプライアンスを守りつつイノベーションを実現する能力を身に付けるため、関係法規の知識を獲得しつつ、グローバルなビジネス戦略・競争戦略の構築能力を学ぶMBAトラックの選択科目</p> <p>【主旨と概要】 グローバル・ビジネスの実行上避けては通れないライセンス・標準化戦略の先にある独占禁止法(競争法)と会社法とは何かについて、日本、米国、欧州諸国、並びに中国等アジアの国々の独占禁止法と会社法の特徴を基礎知識として学び、実際の運用や実情を理解し、グローバル対応のビジネス戦略・競争戦略を思考できる能力を得る。</p> <p>【授業形態】 講義と係争事件を含めたケーススタディを中心にディスカッションを交えて実施する。異業種のゲストスピーカーを交えたディスカッションも行う。</p>

授 業 科 目 の 概 要				
(経営学研究科 技術経営専攻[専門職学位課程])				
トラック科目	General Management	MTI寄附講座	<p>【科目の位置付】 ミクロ経済的視点で経済情勢を把握し、コンセプトを自ら具現化し研究開発と市場開発により競争戦略を実行してイノベーションの実現を希求するCTOや技術責任者を志望する人材を対象とした企業寄附講座</p> <p>【主旨と概要】 企業との共同で開発・実施するコース。 企業の競争戦略、技術戦略、研究開発、企画・管理、セールス・マーケティング等を企業の実務者による説明と担当教員によるファシリテーションにより議論を導き実務の具体的な知見を得ることで競争戦略の策定と実行能力を養成する。</p> <p>【授業形態】 担当教員のファシリテーションの下、企業実務者の講義と講師と履修者との議論を中心に進める。</p>	
		MBA寄附講座	<p>【科目の位置付】 経済情勢の分析・予測力、戦略的思考力、統率力を強化しイノベーションの実現を希求する経営者やCXO人材が、実際の企業経営者、事業家、技術責任者から直接に、経営戦略、経営財務、組織運営、等知見を得ることを目標とした企業寄附講義</p> <p>【主旨と概要】 企業との共同で開発・実施するコース。 企業の戦略・企画・開発・管理・セールス・マーケティングを企業の実務者による説明と担当教員による議論により実務の体験を得るとともに、業界の知識と情報の整理を行う。</p> <p>【授業形態】 担当教員のファシリテーションの下、企業実務者の講義と講師と履修者との議論を中心に進める。</p>	
演習		実践リーダーシップセミナー1-1	<p>【科目の位置付】 経営者や技術を俯瞰するCXO人材ないしCTO志望人材がコア科目で習得した知識を、実際に実務に携わっている経営者、CTO、上級技術責任者、起業家から、体験に基づく講演を聞き、係る講演をもとに議論を行い、コア科目で獲得した知識が実務でどのように活用されているかを確認し知識を知見と能力として定着させる演習科目</p> <p>【主旨と概要】 大企業にて新規事業を起こしたことがある経営者、自らベンチャー企業を起こした起業家経営者、外資企業の日本法人経営者、不振企業の立て直しや再生を行った経営者を隔週で特別講師として招聘し、講師の実績を支えた実践思考と行動についての講演を聞く。翌週専任教員の専門分野毎にクラスを配置し、分野にフォーカスしたディスカッションを行い、特別講師の実践知の分析等を行い経営的分析方法の知見を深める。1年次の科目として必修コア科目で教育される知識が実務でどのように生かされているかを体得し知見と能力とし身に付ける。</p> <p>【授業形態】 ゲストスピーカーによる講義とその講義内容深掘りする各教員のファシリテーションのもとに行うデスカッションを隔週で実施する。</p>	共同 (一部)
		実践リーダーシップセミナー1-2	<p>【科目の位置付】 経営者や技術を俯瞰するCXO人材ないしCTO志望人材がコア科目で習得した知識を、実際に実務に携わっている経営者、CTO、上級技術責任者、起業家から、体験に基づく講演を聞き、係る講演をもとに議論を行い、コア科目で獲得した知識が実務でどのように活用されているかを確認し知識を知見と能力として定着させる演習科目</p> <p>【主旨と概要】 大企業にて新規事業を起こしたことがある経営者、自らベンチャー企業を起こした起業家経営者、外資企業の日本法人経営者、不振企業の立て直しや再生を行った経営者を隔週で特別講師として招聘し、講師の実績を支えた実践思考と行動についての講演を聞く。翌週専任教員の専門分野毎にクラスを配置し、分野にフォーカスしたディスカッションを行い、特別講師の実践知の分析等を行い経営的分析方法の知見を深める。1年次の科目として必修コア科目で教育される知識が実務でどのように生かされているかを体得し知見と能力とし身に付ける。</p> <p>【授業形態】 ゲストスピーカーによる講義とその講義内容深掘りする各教員のファシリテーションのもとに行うデスカッションを隔週で実施する。</p>	共同 (一部)

授 業 科 目 の 概 要			
(経営学研究科 技術経営専攻[専門職学位課程])			
	実践リーダーシップセミナー 2-1	<p>【科目の位置付】 経営者や技術を俯瞰するCXO人材ないしCTO志望人材がコア科目で習得した知識を、実際に実務に携わっている経営者、CTO、上級技術責任者、起業家から、体験に基づく講演を聞き、係る講演をもとに議論を行い、コア科目で獲得した知識が実務でどのように活用されているかを確認し知識を知見と能力として定着させる演習科目</p> <p>【主旨と概要】 大企業にて新規事業を起こしたことがある経営者、自らベンチャー企業を起こした起業家経営者、外資企業の日本法人経営者、不振企業の立て直しや再生を行った経営者を隔週で特別講師として招聘し、講師の実績を支えた実践思考と行動についての講演を聞く。翌週専任教員の専門分野毎にクラスを配置し、分野にフォーカスしたディスカッションを行い、特別講師の実践知の分析等を行い経営的分析方法の知見を深める。1年次の科目として必修コア科目で教育される知識が実務でどのように生かされているかを体得し知見と能力とし身に付ける。</p> <p>【授業形態】 ゲストスピーカーによる講義とその講義内容深掘りする各教員のファシリテーションのもとに行うデスカッションを隔週で実施する。</p>	共同 (一部)
演習	実践リーダーシップセミナー 2-2	<p>【科目の位置付】 経営者や技術を俯瞰するCXO人材ないしCTO志望人材がコア科目で習得した知識を、実際に実務に携わっている経営者、CTO、上級技術責任者、起業家から、体験に基づく講演を聞き、係る講演をもとに議論を行い、コア科目で獲得した知識が実務でどのように活用されているかを確認し知識を知見と能力として定着させる演習科目</p> <p>【主旨と概要】 大企業にて新規事業を起こしたことがある経営者、自らベンチャー企業を起こした起業家経営者、外資企業の日本法人経営者、不振企業の立て直しや再生を行った経営者を隔週で特別講師として招聘し、講師の実績を支えた実践思考と行動についての講演を聞く。翌週専任教員の専門分野毎にクラスを配置し、分野にフォーカスしたディスカッションを行い、特別講師の実践知の分析等を行い経営的分析方法の知見を深める。1年次の科目として必修コア科目で教育される知識が実務でどのように生かされているかを体得し知見と能力とし身に付ける。</p> <p>【授業形態】 ゲストスピーカーによる講義とその講義内容深掘りする各教員のファシリテーションのもとに行うデスカッションを隔週で実施する。</p>	共同 (一部)
	実践リーダーシップセミナー 3-1	<p>【科目の位置付】 2年次の科目として経営者や技術を俯瞰するCXO人材ないしCTO志望人材が、経営者像・リーダーシップを現役の実務経験者から学び、自らの経営者像、CTO像などを考察し、自己のあるべき姿を固めるための演習科目。</p> <p>【主旨と概要】 大企業にて新規事業を起こしたことがある経営者、自らベンチャー企業を起こした起業家経営者、外資企業の日本法人経営者、不振企業の立て直しや再生を行った経営者を隔週で特別講師として招聘し、実践体験に基づき、実践手法、実践戦略について、成功例のみならず失敗例も共に語っていただき、翌週トピックごとに専任教員の専門分野毎にクラスを配置し、分野にフォーカスしたディスカッションを行い、特別講師の実践知の分析等を行い経営的分析から、判断(決断)に至る一連のプロセスの知見を深める。担当教員は2年次の科目としてProjectで進めている各学生のテーマへの寄与を考えた議論や討論をファシリテーションする。</p> <p>【授業形態】 ゲストスピーカーによる講義とその講義内容深掘りする各教員のファシリテーションのもとに行うデスカッションを隔週で実施する。</p>	共同 (一部)

授 業 科 目 の 概 要			
(経営学研究科 技術経営専攻[専門職学位課程])			
演 習	実践リーダーシップセミナー 3-2	<p>【科目の位置付】 2年次の科目として経営者や技術を俯瞰するCXO人材ないしCTO志望人材が、経営者像・リーダーシップを現役の実務経験者から学び、自らの経営者像、CTO像などを考察し、自己のあるべき姿を固めるための演習科目。</p> <p>【主旨と概要】 大企業にて新規事業を起こしたことがある経営者、自らベンチャー企業を起こした起業家経営者、外資企業の日本法人経営者、不振企業の立て直しや再生を行った経営者を隔週で特別講師として招聘し、実践体験に基づき、実践手法、実践戦略について、成功例のみならず失敗例も共に語っていただき、翌週トピックごとに専任教員の専門分野毎にクラスを配置し、分野にフォーカスしたディスカッションを行い、特別講師の実践知の分析等を行い経営的分析から、判断(決断)に至る一連のプロセスの知見を深める。担当教員は2年次の科目としてProjectで進めている各学生のテーマへの寄与を考えた議論や討論をファシリテーションする。</p> <p>【授業形態】 ゲストスピーカーによる講義とその講義内容深掘りする各教員のファシリテーションのもと行うデスカッションを隔週で実施する。</p>	共同 (一部)
	プロジェクト1	<p>【科目の位置付】 経営者や技術を俯瞰するCXO人材ないしCTO志望人材が、自分自身で設定した課題に取り組み研究を行う、必修の演習科目</p> <p>【主旨と概要】 市場・技術トレンドを考察しイノベーションを起こす仕組み、環境、研究・開発、ファイナンス等の研究および実践をゼミ形式で行う。各受講生のテーマにつき発表と行うとともに、最終回はゼミ合同での発表を行う。プロジェクト1では、議論や発表を主体にした各学生の課題設定の指導を行う。</p> <p>【授業形態】 演習・ゼミナールの形で実施する。</p>	
	プロジェクト2	<p>【科目の位置付】 経営者や技術を俯瞰するCXO人材ないしCTO志望人材が、自分自身で設定した課題に取り組み研究を行う、必修の演習科目</p> <p>【主旨と概要】 市場・技術トレンドを考察しイノベーションを起こす仕組み、環境、研究・開発、ファイナンス等の研究および実践をゼミ形式で行う。各受講生のテーマにつき発表と行うとともに、最終回はゼミ合同での発表を行う。プロジェクト2では、議論や発表を主体にしつつ、各学生の課題設定に続く研究計画とその初動成果の報告とそれに対する指導を行う。</p> <p>【授業形態】 演習・ゼミナールの形で実施する。</p>	
	プロジェクト3	<p>【科目の位置付】 経営者や技術を俯瞰するCXO人材ないしCTO志望人材が、自分自身で設定した課題に取り組み研究を行う、必修科目</p> <p>【主旨と概要】 市場・技術トレンドを考察しイノベーションを起こす仕組み、環境、研究・開発、ファイナンス等の研究および実践をゼミ形式で行う。各受講生のテーマにつき発表と行うとともに、最終回はゼミ合同での発表を行う。プロジェクト3では、議論や発表を主体にしつつ、各学生の研究計画に沿った活動成果の報告とそれに対する教育的指導を行う。また成果物としてのGraduation Paperを視野に入れた、論文作成指導も含まれる。</p> <p>【授業形態】 演習・ゼミナールの形で実施する。</p>	
	プロジェクト4	<p>【科目の位置付】 経営者や技術を俯瞰するCXO人材ないしCTO志望人材が、自分自身で設定した課題に取り組み研究を行う、必修の演習科目</p> <p>【主旨と概要】 市場・技術トレンドを考察しイノベーションを起こす仕組み、環境、研究・開発、ファイナンス等の研究および実践をゼミ形式で行う。各受講生のテーマにつき発表と行うとともに、最終回はゼミ合同での発表を行う。プロジェクト4では、議論や発表を主体にしつつ、成果物としてのGraduation Paperに向けて細く研究や調査の助言、また論旨、構成、論理など具体的な論文作成指導を行う。各学生の研究計画に沿った活動成果の報告とそれに対する教育的指導を行う。</p> <p>【授業形態】 演習・ゼミナールの形で実施する。</p>	

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。